

令和3年度

石川町議会と認定農業者会との意見交換会記録

日 時 令和3年7月28日（水）午後7時から午後8時45分まで

場 所 石川町役場 3階正庁

出席者 認定農業者会 根本会長 芳賀副会長 大平副会長 遠藤監事 大島監事
石川町議会 菊池美知男 小木芳郎 渡辺実 矢内義將
農政課 江尻課長補佐

次 第 1 開会（挨拶）矢内 2 自己紹介 3 議会報告 小木
4 意見交換 5 閉会

- 議員 今まで議会報告会を開いて、いたが今年度は、3班に分かれての意見交換会となりましたので宜しくお願いしたい。
- 議員 農業は町の基幹産業ですが、圃場整備の進捗状況について（沢田地区のほ助整備について）明るい話題であると思う。今後中田地区、山橋地区、母畑地区も話が出ている。今後道の駅整備等が予定されている。また自然災害の中で遅霜の影響等があるが、皆様の貴重な意見を聞きたい。
- 認定農業者会で一番感じているのは、認定農業者数は87名いるが、催しに対しての認定農業者自体の意識が薄いと考える。次世代に活発に動いて貰いたいと思っている。
- 議員 都市との交流事業10年ぐらいやっているが、行く人が決まっている。みんなが集まってやれる団体にしたいと思っている。農地の集積は、畜産農家が入ると難しい。また中山間農地は利用が難しい。最終的に考えるのは基盤整備である。
- 農地でも田んぼは、ある程度借りる人がいる。償還金があるが、水田は、大規模をこなせる。
- 議員 赤羽は開パのところを開田している。
- 水田にもしないと償還金が払えない。
- 議員 開パの開田も土地を持っている人は、苦渋の選択だと思う。
- 開田している土地によって開パ水利費がバラバラである。
- 認定農業者会の活性化。ナラシ対策の加入で会員が多く増えたということがあるから出席率が悪くなっている気がする。自分の言いたいことややりたいことは認定農業者会を利用するけど、

いろいろな活動に対しては見向きをしない。産業振興課時代に比べると職員の数が減っているような気がする。町の農政担当者が変わると認定農業者との意見がかみ合わない場合がある。人事で3年から4年で異動させなければならないのはわかるが、農政に対して深く考える時間を役場職員が持てない。その前に異動させられてしまう。農業のエキスパートの職員が育っていかない。今回、農政通の武藤課長が県からきて県とのパイプがしっかり作れるということがあるけど、江尻君みたいに東京農大を出てきて、異動させられるのは仕方ないことだと思うが、年代年代で農業通の人材を育成してもらいたい。

○議員 プロ的な人、専門家を大事にしてこなかった。昭和30年代に赤字再建団体に2回なっている。その時に、役場の中で何が一番大事かと言ったら財政をやっている人が1番大事だという考えがずっと引き継がれてきている。武藤課長が来て、やはり動きが違う。町村合併して大きくなったところは、専門家を雇用できる。国県の農業政策についていけない。農業問題は、変わってきている。

○ 人農地プランの策定で懇談会やるので、認定農業者、議員も加わりまとめる力も必要である。補助事業も人農地プランを達成しないとできないような状況である。基盤整備も人のうちプランの達成と担い手がいないと該当しないので、議員さんのまとめる力が必要である。

○議員 人農地プラン、懇談会やってもまとまる話ではない。現実はもっと詰めた話をしないまとまらないと思う。

○ 人農地プランは、どのような位置づけをされているのか。農業政策、地域政策があって、地域に共有、合意形成をしていかないといけない。地域に入っていく行政マンが対応できるのかというのが課題になっていくと思う。

○議員 人農地プランを理解している人が少ない。今年は主食米が1万円切る話を聞く。来年はやめるという話になる。

○議員 水大変だからため池をどうするかとなったら、あと何年かしてやらないからという話になる。実際、みんなやっているのは70歳だから。

○ それをやらないと地域は厳しい状況にある。今本気になって農地とかいろいろ考えていかないと地域の中でも、手を挙げる人ばかりなので、どのように政策を組み合わせていくか、今考えないと大変な問題になっていくのかなと。今頑張っているのは70年代のウェイトが高い。

○議員 沢田地区の畑3haほど借りている。畑と合わせて10haやっているが、あと何年できるのかと思う。

○議員 農業の従事者、前の統計資料で平成2年ごろは1万人近くいた。5年に1度農業センサス

をやっているが5年前は1300人ぐらいで10分の1になっていて、今回結果が出たら1000人来ているのではないかと農政課では言っていましたけど農業をやっていく人がいなくなったらどうなっていくのか心配。後継者がいなく高齢化が進み、やる気があっても体が動かなくなるわけですから、ほ場整備やっても機械導入してもそれでは済まない。一番は従事する人の確保が必要である。私の近所でも専業農家が5、6軒と少ない。

○議員 国の政策に楯突くわけにはいかないのですが、従っていますけど、これまで農家が衰退したのは小さい農家を守ってこなかった。大きい担い手ばかり優遇した政策を続けてきたと思う。今まで農地を守っているのは、小さい農家です。そういう人たちを大事にしないで切り捨てたのが原因だと思う。これから担い手の人にお任せするといっても全部が全部できるわけではないので、少し国の政策を変えていただきたいと個人では思っている。

○ 小さい農家を守るために人農地プランが必要である。

○ 担い手、小さな農家、緑の政策に入ってきている。政策の方向性も変わってきている。自家消費農家も守って行く必要がある。地域の中でどのような形態で農地を守っていくかということが大事で、そこで人農地プランの話し合いを進めていくことが必要である。

○ 集落のコミュニティーを崩壊させてきたのが一番悪いと思う。農事組合の仕事がないから解散するところが多い、納税組合はプライベートの部分もあるので仕方がないが、もっと地域コミュニティーを大事にする政策にしてほしい。

○議員 農事組合の中で動いていた。

○ つながりがいい、若い人も出ない。

○ 地域の集まりがない。

○議員 昔は集落ごとに球技大会があった。そういうのがなくなって、つながりが希薄になってきている。

○ 小さい農家も兼業農家も生きて行かれるような施策を考えていかないと農地は守っていけない。勤めている人でも正職員も少ない。安い賃金で働く人が多い。都市では、民間企業でも賃金が4段階に分かれており賃金格差がある。その下に非正規職員がいる。

○ 外楯で圃場整備後、担い手に集積するようになるが担い手だけで管理できない。そういう時に兼業農家、会社勤めの人や高齢者の方に水管理、草刈りをしてもらうなど、雇用していくようなことを考えていかなければならない。担い手だけでは、水路など維持できない。地域の方に協力してもらわないとできない。沢田地区88ha 基盤整備やっていて10人の担い手に集積していくようになっていくと思うけど、その人たちが管理できるかという点で難しいので、地域の人の協

力が必要かなと感じている。

- 議員 沢井地区の人から言われたけど。100人でやっていたのが20人なる。80人の人は田んぼをつくらなくてもいい。そうなる今いる人はそこに住んでいるけど、そうでない人はそこに住まなくてもなる。そういう政策でいいのか。たぶん次の世代になったら、そこにはいなくなる。
- 沢井の圃場整備、水路、畦畔の草刈りは、やって貰わないと維持できない。若い人は関係ないと、担い手だけの人は難しい。貸せば何もやらなくていいと考える人が多い。田の場合は水管理、草刈りがこれから問題になる。人農地プランで担い手にやっていくようになる。そうすると貸した人は何もやらなくなるので、地域で守っていくような方策にしていかないと難しい。
- 議員 補助整備事業は合意形成してやっていると思うけど、そういう話はされていないのか。
- 沢田の田んぼの会は法人化されているので管理できると思う。みんな組合員なので。
- 議員 協力金を頂くために集積する。竹柄やらないのか。
- 最初は計画に入っていたが、やらない。
- 議員 面だけでもやればいいのに。
- 山橋の中山間地域はやっているのか。
- 多面と中山間等の政策を利用して、水路の管理とか政策できるので利用している。
- 議員 母畑、中谷、山橋、野木沢、旧石川の中山間地域はこれからどうするのか。山に戻す話になってしまう。
- 中山間自体が維持できるか難しい。
- 議員 無理しないで生活圏だけはして、全部やることは困難なので荒らしたら住めないというところもある。
- 学童保育がないから石川小学校に行っている人もいる。いずれ若い人は出ていく人もいる。どういうふうに活性化していくかといっても商店街がない。まちなかなか活性化といっても難しい、農家もいなくなっている、後継者がいない。
- 議員 今は物の流通はネットである。ある商店では、ネットをやっていないと、どこも限界であると。ネットをやれば全国にお客さんがいる。そういう社会に入っている。流通の仕組みが変わってきている。議会でも農産物の特産品化というのを町長に提言したんですけど、なかなか具体化しない。なんでも出来るけどなんの特色も無い。他と同じものを作っても高くは売れない。
- ほ場整備をやるには必ず高収益作物の導入が必要。高収益作物を6次化に加工にしていかないと思っているけど、どういうものか話し合う機会がない。沢井地区でも高収益作物は手っ

取り早くブロッコリーで。中谷地区のほ場整備でもブロッコリー。とまきでもブロッコリーで出しているんですけど、生産したら農協に出す形となる。王子平では、昔に普及所と一緒に梅のいっつく漬を作った。好評であったけど、みんなで集まって作るのではなく、個人個人で作っているんで、個人によって味が違うというのがあった。道の駅ができるので、何か加工して、例えばサツマイモや落花生を栽培して、サツマイモを作って干し芋や焼き芋にしたり、大豆を味噌に加工したりと考えるんですけど、なかなか実践に移せない。

- 惣菜どれくらい消費されているか。どれくらい残り廃棄されているか。6次化をみんなやるのはおかしい。どちらにしても、生産者からすると、消費された事になる。特産品、平田村のハバネロみたいにどこでもやらないものをやらないと特産品煮にはならない。しかし、本来はその地域にあるものが特産品である。古殿では昔からあった凍み餅、本来はそういうものである。
- 議員 江戸時代に藩でやったものが今でも残っている。その時に知恵を絞ってやっていったものが残っていく。農業の場合は、気候やその土地にあったものでないと駄目である。
- 石川は、何を作ってもできるから中途半端である。山形のブドウは水稻ができない傾斜の場所で作っている。地域に一番根差したものが産地になっていく。
- 議員 特産品は、いろんな人が関わっていかないと。石川みたいに何でもできると特産品は難しい。
- 中島村はタバコが産地であったが、たばこを廃作にして何を作るとなったときにトマトに、今中島村はトマトの一大産地になった。
- 議員 南郷トマトは、山橋出身の水野さんが進めて成功した。
- 畜産農家のたい肥の処理がすごく困っている。持続可能な農業をやっていくために、たい肥を有効活用できるように紐づけし供給できる先を地域振興計画でたい肥マップを作ってはいるけど、それを発展させてサイクルシステムができないか。
- 議員 おがくず堆肥は、畑にむかない。塩害を起こすし、ねこぶになってしまい畑がだめになってしまう。もみ殻の堆肥。
- 議員 かなり前に石川でも栃木県の茂木の事例を見てきて、あそこはやはり専門家です。たい肥をやっている人は職員で大学では専門ではなかったが、今は微生物の関係でいろんな講義ができるまでになっている。においをなくすのに結構お金がかかる。
- 議員 循環型にしていかないと駄目では。
- 本宮市の家畜市場の近くは、田んぼにフレコンにたい肥を詰めて置き後で散布する。
- 原発事故後取引先むずかしい。南会津に1万トンを供給した。そのときは東電の費用で実施し

たが、その仕組みをどうやって作っていくか。南会津のアスパラ農家に農協と協力し配布した。

- 畜産農家の堆肥の処理が一番の課題。34歳、26歳の息子2人就農している。上の息子の時は新規就農資金の補助金年150万で3年間あったが、下の息子が去年就農したが補助の支援はない。別の部門をやれば補助もあるが、なかなかできない。水稻、ライスセッター、家畜を3人で最大限に実施したい。
- 議員 凍霜害で4,800万円の被害があつて、7月議会で1,200万円ぐらいの補正を組んでわけですが、天候や価格変動で色々なリスクを抱えての農業経営なので、収入保険等に参加の取り組みはどうか。経営の一環としてはどうか。
- 認定農業者会でも説明をしている。入るのには青申をやらなければならない。1年目で凍霜害を受けて原資がない。預け金が必要で何千万もあれば最初の年に200万円も300万円も収めるようになる。申告してある収入に対しての金額である。収入保険に参加しているが、青申や最初の年の預け金が大変である。
- 議員 認定農業者の皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。時間が過ぎましたので、これで閉会致します。